

## 漁業者検討会を実施

マナマコは浅海域に生息し、古くから食材として用いられてきたことに加え、近年では海外への輸出が増加していることから、沿岸漁業者にとって重要な漁獲対象種となっています。

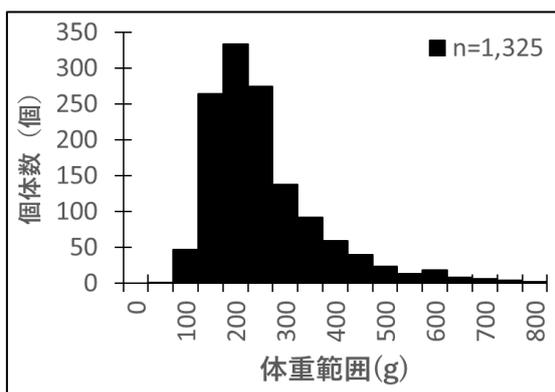
京都府における本種漁獲量の約7割は、舞鶴湾において桁網<sup>※</sup>と潜水の2種類の漁法によるものですが、同湾では漁獲圧の増大による資源の乱獲が懸念されていました。そこで今年度は「舞鶴湾におけるマナマコ漁業の複合的資源管理の取組」というタスクチーム活動を水産事務所と共同で実施しています。この活動は、当センターによる同湾のマナマコ漁業に対する研究結果(令和2~4年)を基に、漁業者と共に本種の資源管理手法について協議し、同湾における本種の資源及び漁獲量の安定化を図るものです。

9月15日に舞鶴湾の桁網・潜水漁業者と共に検討会を開催し、当センターから令和4年度調査結果の報告に加え、冬季から始まる令和5年度漁期における資源管理手法(体重規制の強化)を提案したところ、漁業者からも資源管理への前向きな意見が出されました。今後も資源管理の実施に向けて、協議を重ねてまいります。

※ 桁網:金属製の枠(桁)を付けた網、小型の底曳網の一種



舞鶴市場でのナマコ調査の様子  
(写真でナマコの体長を測定する)



舞鶴市場での漁獲物の体重組成